



20年度の当初予算が決まる

―道路特定財源を前提―

厳しい財政運営の中、去る3月19日、平成20年度の当初予算と共に、石川知事から提案された全ての議案を賛成多数で可決し、予定通り終了いたしました。

1兆1300億円の予算総額は前年と殆ど同額であり、国の云う緩やかな経済成長は少なくともこの予算書からは見出せないところでありました。

殊に公共事業等への投資的経費は凡そ10年前に比較するならば、半分にまで縮んだ計算になります。

近年、地方財政をかくも厳しくさせた要因のひとつは例の「三位一体改革」にあつたと考えられます。

当時、地方の自主的な財政運営を応援するとの目的で、国は地方交付税や国庫補助金などを縮小し、替わって財源の移譲(例・消費税の5分の1を地方に)を図ることによって、地方の主体性をバックアップする目的の「三位一体改革」は、結果として国の膨大な債務への充当に振り向けられ、地方が期待した改革とはならなかったであります。

そんな状況下での本年度の当初予算の中身については、先ず、地域保健医療について、

最近、社会問題化している医師不足の対策、周産期医療などについて助成、また看護職員の確保のために順天堂大学静岡看護学部への助成、一方、少子化対策については乳幼児保育の補助単価の引き上げや児童クラブへの助成など、福祉関連予算を充実しました。また来年3月開港の静岡空港については、

待望の草薙球場の拡張

「沢村栄治対ベーブラス」の歴史的日米野球を記録した県立草薙球場の模様替えが愈々始まります。

昭和36年の国民体育大会の本会場として建設された草薙総合運動場は間もなく半世紀を迎えようとしております。

当然のこと、これを利用する各種スポーツ関係者からは様々な不満の声を聞いてきたところでもあります。

そこで静岡県は、本年度1億円余りをもって、公式野球場としては狭隘な現在の施設を改良することにしました。

基本的には球場の両翼を98メートル以上、センターは122メートルに拡張、更に外野席はこれま

残る滑走路の舗装やターミナルビルの必要経費などを計上、またJR沼津駅および富士宮駅の立体交差化を進めることになりました。特に本年度は目立った予算措置はありませんでしたが、別項に記載しておきました草薙球場がこれから本格的に整備されることとなりました。

もとより、道路特定財源がこれまで通り遵守される事を見込んでの予算措置ですので、国政の方向には片時も目が離せません。

※周産期とは出産前後・産前産後など母子双方にとって注意を要する時期

での芝生席を観客席に整備、収容人員3万人を予定しております。

ご案内のように、当運動公園の面積は23・8ha(72,000坪)ありますが、各競技施設は容積率一杯に建設されているために、これまで改修できませんでした。

ところが幸いにも当該ランドに隣接する静岡学園中・高校が、静岡工業高校の跡地(太田町)に移転してもいいとの意向から、静岡県は急遽、草薙総合運動場の整備計画に着手し、平成20年度から5カ年計画で各施設を整備するところとなったのであります。

なお草薙球場について、関係者からドーム化を期待される声も少なくはありませんが、ランニングコスト等からも実現は「不可能」との当局の判断は正鵠を得たものと私は考えます。

特別企画——中村敬宇について。

3月17日の静岡新聞の大自然には中村正直（敬宇）について、筆者の温かな目と豊富な知識をもとに本市と深い関りを持つ明治の思想家を紹介しておりましたので序に私もペンをとりました。

中村敬宇（1832—91）は幕臣の家に生まれ、後に幕府の儒官となり、英国留學生の監督として渡英しておりましたが、その滞在中に幕府は滅亡、大政奉還となつて、急遽帰国するところとなつたのであります。

將に「都落ち」の心境だつたでしょう、16代將軍に当たる徳川家達（いんぎょ）に移住したことを知つた中村敬宇は後を追つて、彼もまたこの地に住まいし、「駿河学問所」の教授として雌伏するところとなつたのであります。

市内大岩町の富春院の門前に敬宇の筆になる「尚志」の碑があり、近所には敬宇の自宅があつたことを示す石柱が風雨に洗われて寂しく立っておりま

す。この頃の敬宇の生活は決して恵まれたものではなかつたでしょう。しかし、貧しさの中で一躍「中村敬宇」

の名を天下に知らしめたのは、サミュエル・スマイルズの「Self Help」を翻訳、これを「西国立志篇」の邦題で出版したところ、何と100万部を売り上げ、福澤諭吉の「学問のすすめ」と並ぶ大ベストセラーとなつたのであります。

かの有名な「天は自ら助くる者を助

か

一寸一言 私の雑記帳から

県民所得のランクで静岡県が第3位

恐らく実感として湧かないでしょうが本県は昨年に引き続いて47都道府県で、東京・愛知に続いて第3位を堅持したのでした。

一位の東京は477万円、2位の愛知が352万円、ここまでは誰もが予想する範囲ですが、本県の334万円という数値は実感として感じられないところではないでしょうか。

一方最下位は沖縄県の202万円、これは東京の42.3%に過ぎません。勿論働き盛りの青年の多くが、東京など大都市へ転出し、地方の高齢化を表

く」の教えはこの西国立志篇の序文にある言葉であります。

昨今の風潮として、兎角、失敗の理由を第3者に当てつけたり、或いは政治に擦りつける傾向が見られますが、敬宇の言わんとする処こそ「Self Help」の精神である、と信じます。

今月は郷土史とは少々かけ離れたましたが、「大自然」を読んで急遽、変更致しました。

している数字でしょう。

また地域間の格差は広がる一方で、道州制問題が愈々、声高に論議されてくるのではないかと心配いたします。

さて、それでは県内の市民所得について、県統計利用室の資料を覗いて見ましょう。

県内1位は裾野市、2位は小山町、3位は御殿場市と全てが富士山周辺に位置する工業地帯の市や町です。

静岡市は11位で平均所得を僅かに上回っておりますが、浜松市が本市より低く12位に沈んだ理由は恐らく広大な山間地域を合併した事による数値でしょう。

なお裾野市の533万円に対し最下位の南伊豆町は202万円という県内でも大きな地域間格差がありました。

彩時記

4月は入学式のシーズン。桜の花びらに、遠い昔の自分の入学式や、子供さんの入学式を思い出す方も多いのでは。

入学式は4月があたりまえとなっていますが、昔は事情が異なりました。江戸時代は寺子屋、私塾など学校の形式がまちまちで、特に入学の時期は決められていませんでした。その後、明治維新で西洋の教育が導入され、高等教育では9月入学が主流に。

しかし、明治の中頃に政府の年度会計が4月始まりとなり、それにあわせて小学校の4月入学が奨励されるようになりました。その頃に陸軍の入隊開始日も9月から4月に変わり、優秀な学生を軍隊に確保されることを懸念したのか、高等師範学校の4月入学が定められました。1900年（明治33年）には小学校が正式に4月入学となり、帝国大学や旧制高校も徐々に4月入学へ。

入学式=4月、桜・・という概念の背景には、歴史のさまざまな事情があつたのですね。なにはさておき、平和な時代に桜の下で新学期を迎える子どもたちを、心から祝福してあげたいものです。

『天野進吾』の歴史講座

町内会の集會、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。大変ありがたいことにこのSHINGO SCOPEの郷土史が好評を頂いております。どうぞ、お気軽にお声掛けください。